

日々進歩する救命救急の機械器具を使いこなすため訓練を行う消防署員。



う精神が作り上げた「協働」の原点のような存在。それぞれが生業を持ちながら、有事の時に駆けつけ、消防職員と一緒に

活動する団員の心意気には、正直頭が下がります。私も3年前から第一分団に加えていただいておりますが、私なんかは、正直、仕事を優先しがち。でも他の団員の方は違う。あらためて「協働」という言葉を考えた時にここでもかなり教わることがある！と思っているところです。

今号は「消防」のお話。消防署と言ってもその職務の大半は消防活動ではなく、救命救急の仕事のようです。じつは、私も過去に2度ほど、救急車のお世話になっています。救急車で帯広の病院まで運ばれる間、隊員の方が横にいてくれる安心感は、今も忘れていません。

今回、ちょうど、署に伺ったとき、訓練の真っ最中でした。時代と共に多様化する災害や事故、それに対応するために日々進化していく救命救急の機械器具。それを使いこなすための訓練は、真剣そのもの。ほんとに近寄りたいたいぐらいの雰囲気でした。

日々の訓練があるから、いざ本番で実践ができる。[Nothing great is easy] 我々が日々安心して生活できるのは、この人たちの努力と苦労のたまものであることを改めて実感しました。

「町民の命を守る」という任務を持つこの偉大な仕事と職員の皆さんに「ありがとう！」と心から言いたいと思います。

ところで前号で坂口さん一家に教えてもらった「協働」という言葉、覚えていらっしゃるでしょうか。「協力して働く」という意味ですが、この「消防」でもそれを感じています。火事や災害の時に役割を果たす「消防団」は、まさに長い歴史の中で地域を守るとい



写真は、浦幌市街地区の第一分団の春の演習の様子です。普段の訓練の成果を発表する場ではありますが、同時に組織として大事な統率性、つまり「まとまり」の重要性を再認識させていただきました。皆さんも機会があったら、それぞれの地区で活動されている消防団の演習をご覧になってください。団員の普段と違うその雰囲気にきつとびっくりされるのではないのでしょうか。

これからの時代、「まちづくり」は行政だけで行うものでなく、住民との「協働」で行うものであるという認識が広まってきている今、地域における「消防団」の重要性をもう少し考えてみてもいいのではないのでしょうか？そう思っているこの頃です。「真剣な表情はやはり、カッコイイ！」今号では、「消防」に携わる人たちをご紹介させていただきました。



第1分団の春の演習。普段の訓練の成果を披露する団員（写真は浦幌消防署提供）。

写真・文／おうみ まさたか
近江 正隆

カッコイイ人・顔・仕事！



軽スポーツセンターとして利用される旧吉野小学校

コミュニティーセンターの位置付けについて
浦幌町は大変広大な面積を有していますので、市街地区から離れた地域に公民館・生活館・コミュニティーセンターを建設し、利便を図る事については、異論は有りませんが、吉野地区には公民館があるのでコミュニティーセンター

コミュニティセンターのあり方

センターを整備する
として考えてい
ます
コミュニティセンター
のあり方

不必要と思われる。
施設閉鎖の中での旧校舍整備の意味について
財政状況が厳しい事を理由に、農村環境改善センターを閉鎖し、中央公民館を閉鎖しようとしているこの時期に、旧校舍とは言え、新たにコミュニティーセンターを整備する事は、現在進めている町財政支出の抑制に逆行すると思われる。
公共施設の今後の取扱いについて
公共施設といわれる建築物の中で、最終的に閉鎖するものと存続させるものは、どの建物をどのような理由で、閉鎖または存続させるのでしょうか。
については、ご意見のとおりと考えています。旧校舍を新たにコミュニティーセンターとして整備することは考えていません。
校舎等の一部改修ですが、校下より体育館を学校開放事業で使用してきた経過があり、小学校閉校後も使用したい旨の要望があり、付随する校舎の1教室をミーティングルームとして必要最小限の補修を予定しています。

VOICE

〒089-5692 浦幌町字桜町 15 番地の 6
浦幌町役場まちづくり政策課広報広聴係
TEL 6-2111 FAX6-2519
Eメール mati@urahoro.jp

普段の暮らしの中で感じたこと、考えさせられたこと、楽しかったこと、悔しかったこと、腹が立ったこと、まちづくりへの提言などを手紙やFAX、Eメールなどでお寄せください。なお、誹謗・中傷や本町の行政と関係のない内容のお話は遠慮ください。

投稿時のお願い

『VOICE』への投稿の際には、確認連絡用として氏名・連絡先をご記入ください。ご意見、ご要望の確認をさせていただきます。紙面上には氏名等は記載されません。秘密は厳守されます。

については、農村環境改善センターは、維持にかかる費用に対し利用実績が年毎に少なくなり昨年は特に少なく、この4月より休館しているところです。中央公民館については、自主自立計画では平成18～19年度の2年間の休館となつていますが、来年度に向け、休館するのが、しないのが、また休館しない場合はどこまで維持費を下げる事ができるのかも含め検討しているところです。

については、平成18年度は、厚内生活館、吉野生活館の両館とも老朽化が進んでいるのと、利用実績が少ないため廃止を予定しています。
将来についての建物の閉鎖または、存続させるのかについては老朽化、維持費用、利用実績等が考えられますが、閉鎖または、存続の判断は十分な協議と検討が必要と考えています。
(総務課管財契約係)